

第4回第2次岡崎市文化振興推進計画策定委員会会議録

1 日時

平成 28年8月 26 日(金) 午後2時 開会 午後4時 閉会

2 場所

岡崎市役所 西庁舎5階 501 号室

3 委員

出席者 清水裕之、榊原悟、柏木典子、団野美由紀、柴田剛太郎
渡辺傳次郎、梶田美香、仲村悠希、山田高広、青木日奈子

欠席者 なし

4 事務局

文化芸術部 部長 石川眞澄、文化総務課 課長 野田元陽
文化総務課 主幹 前島豊、主査 鈴木みどり

5 傍聴人

なし

6 議題

(1) 第2次岡崎市文化振興推進計画 第2章、3章、4章について

(2) 同 第5章について

7 議題要旨

委員 責任と役割分担の記載が重要。また、計画を実現することで、まちがどうなるかが重要。

チャレンジ100事業の話があつたが、実施は大変だし、補助がなくなった後も、事業継続していくことは非常に大変。とはいえ、補助金を出し続けるという仕組みも違う。10年後やその先のことを考えなくてはいけない。

行政がずっと実施するのか、民間主体に今後なっていくのか、仕分けるべき。多面的に繋がっていないと単年度事業で終わってしまう。

資料2 どれかとどれかを繋げて行ったらどうか。

現状では10年後のイメージもできない。どこで、誰が、やるのか。まちがどうなっているのか。各委員でできることを出し合うのはどうか。

委員 (多面的に繋がるというお話があったが)行政内でも担当者しかわからないことが多々ある。連携の仕方や、自立した時のサポートの仕方を検討したらどうか。岡崎文化協会の独立についても、そのプロセスが重要、記録に残すべき。

ある程度ターゲットを絞ったほうがよい。

事務局 将来的に自立を目指すとしても、すべての機能が行政から離れるわけではない。10年間で文化分野においてできることはむしろ少ない。

前計画の反省から、言いつ放しにしないようにする。第4章で検証する。

石垣市と親善都市提携をしているが、今や産業面での波及をしている。そのような成功事例に学びたい。

基本理念の意味として、まちの各地でポコポコと文化が起きるような姿を目指したいと思う。

委員 理想の姿の話に関連して、「コップの泥水」の話をする。コップの中の水がきれいになっているのではなく(行政はこれを目指しがちだが)、水と泥が混ざり合って濁った状態、これが目指す文化の姿だと思う。そのためには、ある程度、水をかき混ぜるためのチカラ(投資)も必要。

投資として、「事業支援」と「組織活動支援」と2種類あると思うが、いずれにしても、それが適正かをきちんと検証しなくてはならない。

独立の話もあったが、文化主体の中でも、メジャーな団体とはきちんと議論をしなくてはならない。

委員 計画の実施主体がまだ見えてこない。他の計画では、誰がどの役割を担うか、きちんと明記している計画もある。本計画は記載が弱いのでは。

事務局 行政以外の主体を記載して行く場合、団体の性質と、役割の内容にもよるが、明記することで誤解を生じる可能性もある。

委員 それでは、計画を作ってどう動かしていくのか。検証は誰がやるのか。

委員 検証については、アーツカウンシル機能の導入を検討したい。既存の組織を改組するという形も視野にいれている。

事務局 資料2をひたすらモニタリングしていく。

委員 誰かが、部署と部署をつなぎ、行政と民間や他の主体をつなぐなど、コーディネートする必要があるのでは。

文化を通じて、「教育」「産業」「観光」を串刺しにすること考えた方がよい。できれば明記するとよい。

委員 第4章と第5章を逆にしてもよい。

事務局 行政だけの動きは、総合計画に記載している。文化のプランでは、せっかくつくるので、民間の動きも含めて書きたいと思っている。

委員 P23 の下の二つはコミュニティプログラムではないか。費用対効果を考えなくてはならない。オリジナル作品を創造することにどんな意味があるのか、そこまで検討しなくては。

事務局 費用対効果の話がでたが、美術の面においては、例えば、企画展といっても巡回展を行う場合と、本市学芸員総出で作り上げる企画展と2種類あるが、一概に、どちらがよくてどちらが不要、とは言えない。

委員 単純かもしれないが、例えばスタンプラリーの仕掛けを入れるなど検討したらどうか(※美術館系施設では実施済み)。演奏会(ホール)に何回足を運ぶと、特典があるとか。若者(学生含む)にはうけるのではないか。

重点プラン2は、はっきりしない。

委員 基本方針から決定的に欠けているものがある。伝統文化の継承とあるが、保存の視点が欠けている。郷土館の現状をみても、きちんと保存してから活用を考えるべきと感じる。

また、お寺で保存されているものもきちんと調べるのが緊急課題。重点プラン5で保存に言及してほしい。

委員 重点プランが多い。本当にこれだけやれたらよいが、10年後に重点プラン5がどうなるのか。どれかだけでも成果が出るような取組みにしないといけない。

委員 P23「アーティスト インレジデンス」「サマースクール」「オブジェクトシアター」もできるのか。

委員 数ではなく、リアリティの問題。この委員が推進していくならできる。計画を作って終わりじゃないが、エンジンがみえない。

委員 来年度アクションプランをつくらないといけない。重点プランのすべてを一度に動かすことはできない。分散して実施することも検討したらどうか。

委員 市民主体とあるが、判断を誰がやるのか。

委員 実行するための主体を考えなくてはならない。

委員 重点プラン6として、プロジェクトチームを立ち上げるという案はどうか。

委員 進行管理はひとつ課題である。やれそうな雰囲気づくりも必要。

委員 各重点プランの目的をもう少し明確にした方がよい。

委員 重点プランをよんだだけでわかるようにしておく。

事務局 各プラン実現までの手法がみえづらいという御意見が多いとわかった。整理したい。

委員 書いてあることは消さずに、もう少し整理してほしい。

委員 社会教育課、観光課、都市計画課など、同じような議論をしている部署がある。情報共有すべき。

事務局 本日の御意見をもとに、修正していきます。本日は以上です。

午後4時 閉会